

【様式】 平成28年度組織目標評価(組織名:環境政策課)

番号	目標項目	目標値等(目標の内容)	達成状況(成果と課題)	達成度	今後の対応 (△・×の項目)	担当所属
1	琵琶湖環境研究推進機構の取組の推進	<p>○琵琶湖環境の課題に対する連携研究の成果を部局横断で確認・共有し、施策化に向けた検討を進め、政策提案をとりまとめる。 「在来魚介類のにぎわい復活に向けた研究(平成26年度～平成28年度)」</p> <p>○大学など外部機関との連携・交流を進め、調査研究の充実を図る。</p>	<p>○琵琶湖環境研究推進機構の各会議を通じ、連携研究の成果を共有するとともに、3月22日本部会議で政策提案の方向性を決定した。 提案内容 12件</p> <p>○2月24日に研究セミナーとして、滋賀県立大学の教授や国立環境研究所の研究者と研究成果に関する議論を行い、調査研究のとりまとめに向けた考察を充実させた。</p> <p>※(No. 9参照)</p>	○		環境政策課
2	職員の意欲を引き出し、能力の向上につながる研修の充実	<p>職員の意欲を引き出し、能力の向上につながるため、次の研修を実施する。</p> <p>①新任職員研修の実施 1回</p> <p>②環境担当職員実務研修の実施 12回 (市町職員にも参加を募る。)</p> <p>③モチベーション研修の実施 (先輩職員の経験から学ぶ機会など、職員のやる気を引き出す研修) 1回</p>	<p>①新任職員研修 5月26日、27日実施済み 34名参加 新任職員のみならず他部局職員、 県民の皆さんにも広く受講可能 としている。</p> <p>②環境担当職員実務研修 14回実施済み 227名参加 【内訳】一般実務研修 6回 155名参加 (うち市町41名) 湖上研修 4回 13名参加 水質事故訓練 4回 59名参加 (うち市町28名)</p> <p>③モチベーション研修 3月10日実施済み 78名参加 講師 先輩職員 「県政の中の環境行政」 有識者 「琵琶湖と生きる その価値と魅力」</p>	○		環境政策課

番号	目標項目	目標値等（目標の内容）	達成状況（成果と課題）	達成度	今後の対応 （△・×の項目）	担当所属
3	【新】国立研究開発法人国立環境研究所の一部機能移転（湖沼環境研究分野の研究連携拠点の設置）	○平成29年度に滋賀県琵琶湖環境科学研究センター内に国立環境研究所の琵琶湖分室（仮称）を設置し、共同研究実施体制を整備する。	○平成29年2月17日に国立環境研究所、滋賀県、環境省の3者で連携協力に関する基本協定を締結した。 ○名称は琵琶湖分室に決まり、平成29年4月に設置することとなり、国環研の研究者や研究補助員が当初予定を上回る10名程度駐在することとなった。 ○また、平成28年度中に共同研究の一部を開始することができ、平成29年度以降に実施する共同研究の内容を決定するとともに、研究成果を活用、実用化する場として「しが水環境ビジネス推進フォーラム研究・技術分科会」を平成29年1月31日に設置した。 ○さらに、平成29年度地方創生推進交付金の交付金実施計画を作成し、申請を行った。	◎		環境政策課
4	環境汚染防止の自主管理の促進	立入事業場数 200事業場	○立入事業場数 211事業場 ○団体主催の企業向け環境関連法制度説明会等に講師として参加（9回、参加者延べ約400人）	◎		環境政策課

※「達成度」の欄は、年度末の目標の達成について、

◎ 目標を超えて達成（100%超）、○ 目標どおり達成（100%）、

△ 目標の半ば以上の実績（50%以上）、× 目標の半ば以下の実績（50%未満）

に分類・評価して記入してください。なお、評価するにあたり、カッコ書きの数値により難しい場合は、この数値を参考としながら、各目標の内容に応じた評価を行ってください。